

東海道の歴史的資源を活かしたみちづくり

整備計画（案）～概要版～



1 みちづくりの整備コンセプト

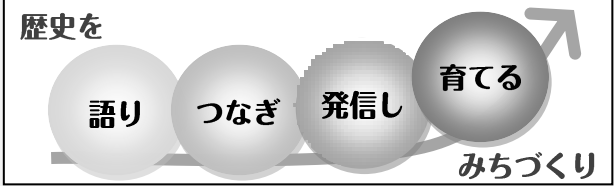
『東海道の歴史的資源を活かしたみちづくり』

～多くの人に愛されながら保土ヶ谷宿の歴史を紡ぐ～



2 みちづくりの基本方針

一般国道1号（保土ヶ谷橋工区）で、東海道の歴史的資源（軽部本陣跡、旅籠本金子屋跡、保土ヶ谷橋等）を有効に活用しながらみちづくりを進めることを示しています。



- 基本方針1: 時代毎に刻まれた歴史を語り継ぐみちづくり
- 基本方針2: 保土ヶ谷宿周辺の多様な資源をつなぎ回遊の骨格となるみちづくり
- 基本方針3: 歴史・文化を活かした交流促進と情報発信を支えるみちづくり
- 基本方針4: 地域とともに創り育てるみちづくり

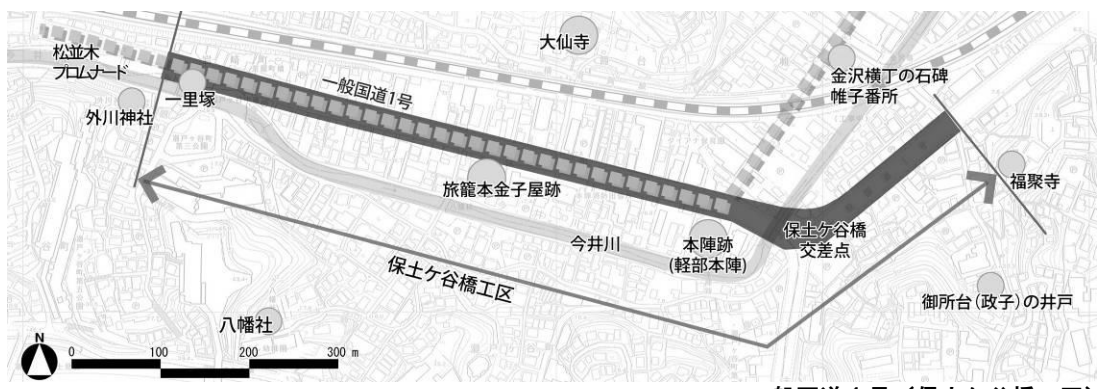
3 整備計画

4つの基本方針を受けて、みちづくりを具体化するための整備計画を定めます。

- 整備計画1: 歴史を継承する道路整備**
 - (1) 江戸時代や近代化以降の歴史を活かした近世・近代のイメージの付与
 - (2) 旧東海道の道筋、現東海道の道筋を継承する路面整備
 - (3) 往時の街の状況を思い起こす町割石や街路樹等景観の形成(⇒P4)
- 整備計画2: 歴史的資源への回遊起点となる辻やサイン等の整備**
 - (1) 回遊起点となる辻の整備
 - (2) 辻を結ぶ回遊ネットワークの形成
 - (3) 歩行者案内サインや歴史解説板等の整備(⇒P5、6、7)
- 整備計画3: 魅力ある拠点形成や駅伝を舞台とした情報の発信と提供**
 - (1) 歴史的資源の保全・活用
 - (2) 広域的なにぎわいと交流の促進
 - (3) 駅伝の応援と沿道の一体感の創出(⇒P8)
- 整備計画4: 市民参加によるみちづくりと維持管理**
 - (1) 市民参加によるみちづくり
 - (2) 市民参加による維持管理
 - (3) 市民参加によるみちを活用したイベント活動(⇒P8)

一般国道1号（保土ヶ谷橋工区）の概要

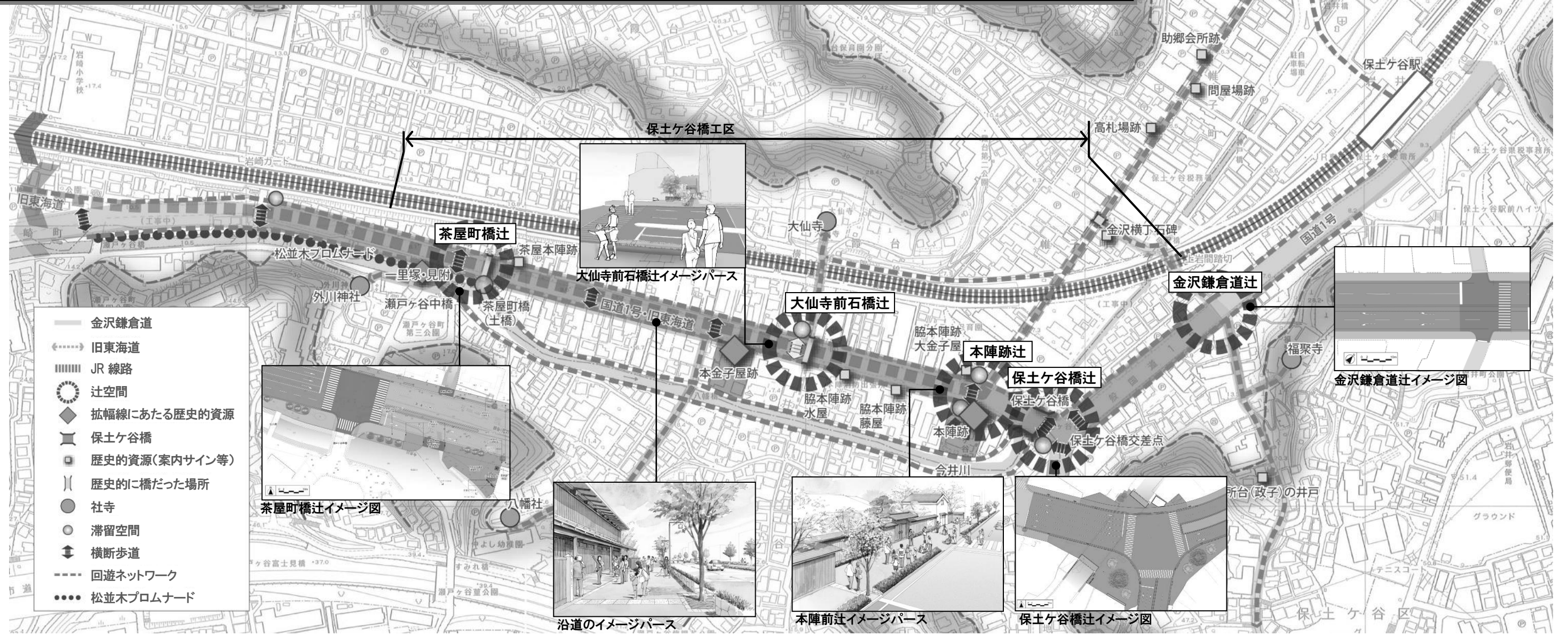
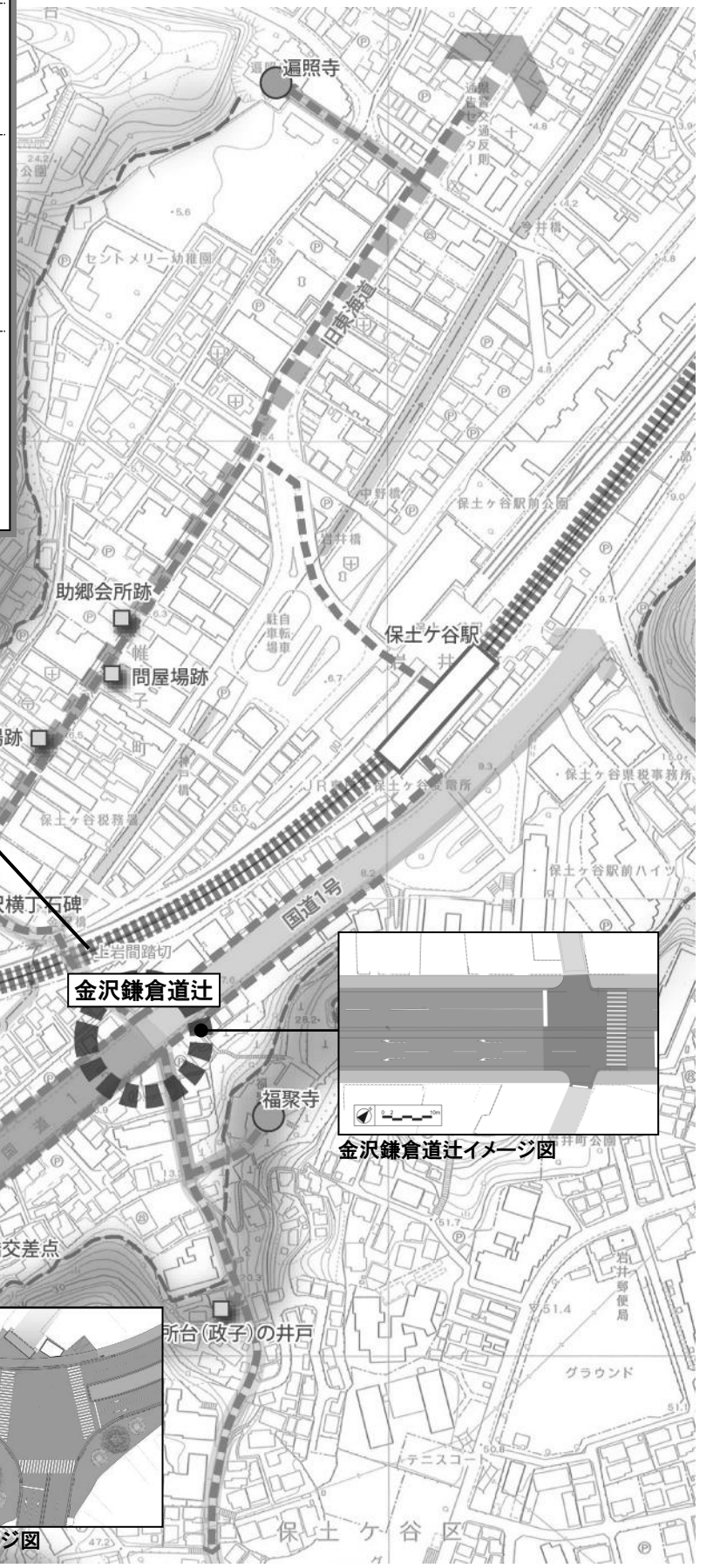
- ① 起点・終点
保土ヶ谷区岩井町
～保土ヶ谷町2丁目
- ② 規模
延長約800m、幅員25m
- ③ 整備の目的
交通の円滑化、安全性の向上及び沿道環境の改善を図る



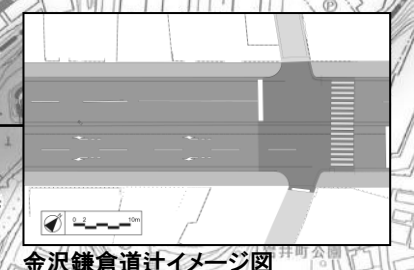
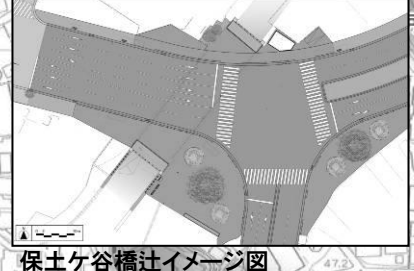
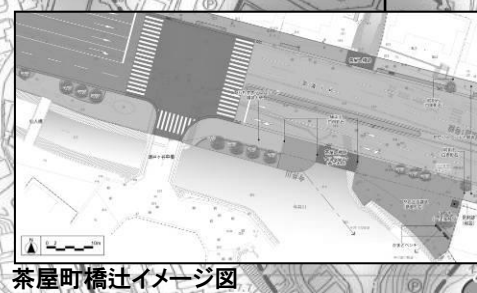
一般国道1号（保土ヶ谷橋工区）

■みちづくりの基本方針図

時代	各時代のみちづくり等の出来事	関連する歴史的資源	歴史の出来事に対応する辻				
			金沢鎌倉道辻	保土ヶ谷橋辻	本陣跡辻	大仙寺前石橋辻	茶屋町橋辻
[中世] 鎌倉時代	金沢鎌倉道(——)、政子の井戸(□)	● 大仙寺	○				
[近世] 江戸時代 1601年～	旧東海道(-----)の道筋整備・確立	◆ 軽部本陣、旅籠本金子屋 □ 脇本陣(大金子屋、藤屋、水屋)跡、茶屋本陣跡、歴史的資源(助郷会所、問屋場、高札場)跡(現在サインのみ)、金沢横丁石碑			○		○
[近代] 明治時代 1887(明治20)年 大正時代 ～昭和時代初期 1923(大正12)年	鉄道開通 震災復興	大仙寺参道 駅東西駅前広場 保土ヶ谷橋(震災復興橋梁) ◆ 軽部本陣跡の鉄筋コンクリート造の蔵 ◆ 旅籠本金子屋跡住宅の屋根		○	○	○	
[現代] 昭和時代後期～ 今 後	国道1号(——)道路拡幅① 国道1号(——)道路拡幅②	◆ 軽部本陣跡の門 狩場工区整備、今井川整備、松並木プロムナード 保土ヶ谷橋工区の整備 ◆ 軽部本陣跡、本金子屋跡、保土ヶ谷橋、一里塚・見附(復元)の活用 --- 回遊ネットワークの強化(辻空間(○)、滞留空間(●)の創出)	○	○	○	○	○



- 金沢鎌倉道
- 旧東海道
- ||||| JR 線路
- 辻空間
- ◆ 拡幅線にあたる歴史的資源
- 保土ヶ谷橋
- 歴史的資源(案内サイン等)
- || 歴史的に橋だった場所
- 社寺
- 滞留空間
- ⇄ 横断歩道
- 回遊ネットワーク
- 松並木プロムナード



1. 歴史を継承する道路整備

(1) 江戸時代や近代化以降の歴史を活かした近世・近代のイメージの付与

- 1) 継承する時代をイメージする素材や耐久性の高い素材の活用 (図1参照)
 - ・既存の歴史資源の継承と活用
 - ・木や石等の自然素材や耐久性の高い素材等の活用
- 2) 東海道や宿の雰囲気、近代遺構のみちづくりへの活用
 - ・歴史的に価値のある資源(軽部本陣跡の門や蔵、旅籠本金子屋跡、保土ヶ谷橋等)調査と記録・保存やサイン、ストリートファニチュア(ベンチ、プランター等)としての活用
- 3) 歩行者の快適性とまち歩きの特長、歴史的景観を考慮した断面構成の形成 (図2参照)
 - ・南側歩道幅員確保、無電柱化、街路樹設置等



図1 沿道のイメージパース

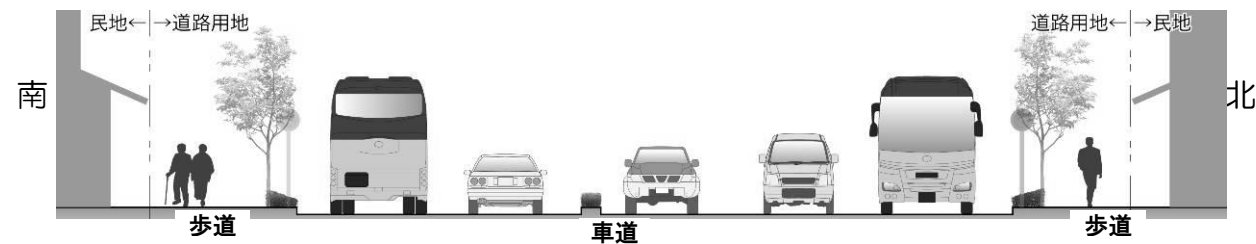


図2 道路の断面構成

(2) 旧東海道の道筋、現東海道の道筋を継承する路面整備

- 1) 旧東海道の道筋の再現 (写真1参照)
 - ・旧東海道部分の道筋をつなげる自然な風合いの舗装(茶系)
- 2) 震災復興街路の道筋の再現 (図4参照)
 - ・震災復興街路である本陣跡前交差点から保土ヶ谷駅東口方向の舗装(灰色系)



写真1 舗装イメージ

(3) 往時の街の状況を思い起こす町割石や街路樹等景観の形成

- 1) 街の様子再現(町割石、屋号境界石) (図1、3参照)
 - ・宿場時代の街並みを再現する町割石の設置、往時の街の状況を想起させる屋号境界石の設置
- 2) 歴史を思い起こす街路樹等の設置 (写真2参照)
 - ・宿の内外の変化を感じられる様に旧東海道(本陣跡前以西)と現東海道(保土ヶ谷橋交差点以東)で異なる樹種の設置
- 3) 歴史を思い起こす道路附属物や占用物件の整備
 - ・植栽樹、車止め、横断防止柵・防護柵、道路照明等について、旧東海道筋における近世のイメージや現東海道における近代のイメージに合う統一感のあるデザイン検討
 - ・標識類、地上機器類等についても道路景観に馴染むような色彩や形態の修景整備検討
- 4) 東海道の道路境界履歴の表示
 - ・旧東海道(幅員約9m)、現東海道(幅員約18m)の拡幅の歴史を伝える道路境界履歴の表示
- 5) 見附の復元等による宿内外区分けの表示
 - ・歩行者や自動車利用者が宿の内外の変化を感じられる見附の復元等

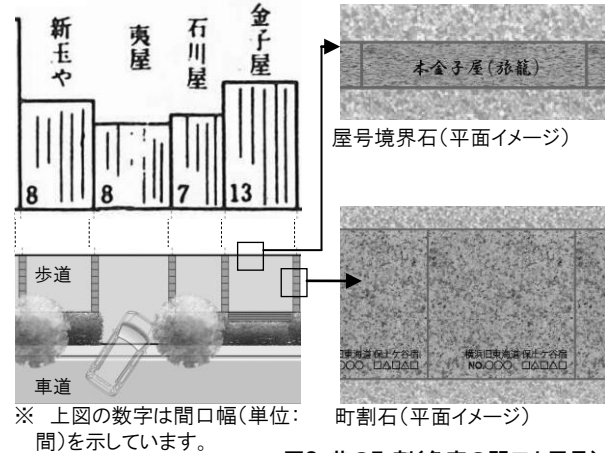


図3 昔の町割(各家の間口と屋号)



写真2 街路樹(中高木、低木植栽)の候補

2. 歴史的資源への回遊起点となる辻やサイン等の整備

(1) 回遊起点となる辻の整備

保土ヶ谷橋工区をみちの骨格として、歴史的に価値のある各資源につながる結節点に辻(図4参照)を設け、時代毎の歴史の積層と地域の構造がわかるように整備

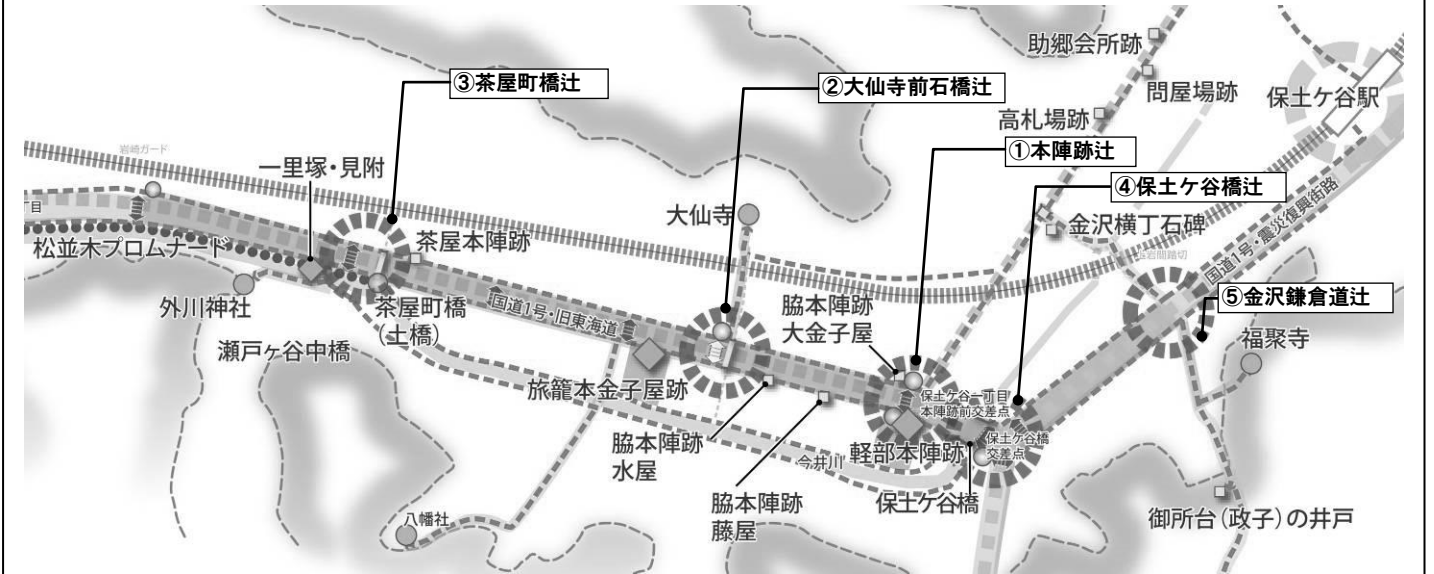


図4 辻位置図

1) 歴史まち歩きの回遊拠点としての「本陣跡辻」(図5参照)

保土ヶ谷宿のL字型の固有性の認識付与等

- ・保土ヶ谷宿のL字型の形態の印象や認識を付与する交差点全体における自然な風合いの舗装(茶系)

軽部本陣跡前等の滞留空間の確保

- ・交差点部における通行空間と滞留空間の確保

門構えの保存や鉄筋コンクリート造蔵等の保全・活用

- ・保土ヶ谷駅方面からのアイストップ(目印)となる位置への門の配置
- ・震災前に建てられた蔵の保全・活用

まち歩き情報の提供

- ・歴史解説やまち歩き案内等



図5 本陣跡辻イメージパース

2) 東海道を横断し今井川に流れる水路があった「大仙寺前石橋辻」(図6参照)

回遊性を高める交差点の検討

- ・街の南北を往来しやすくし、回遊性を向上するための横断歩道設置検討

参道や往時の水路を思い起こさせるイメージ付与

- ・参道と交差点車道部の舗装の色彩に変化
- ・参道の石畳や水路をイメージする路面舗装

交差点付近滞留空間の確保

- ・歩道や滞留空間を確保するための大仙寺参道入口へのポケットパーク設置検討

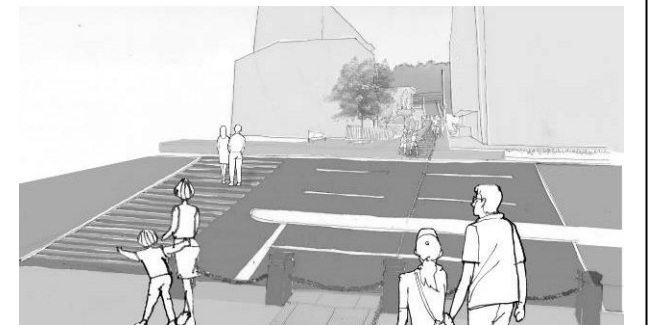


図6 大仙寺前石橋辻イメージパース

※図やパース及び写真はイメージで、確定したものではありません。

3) 宿内外を分けた「茶屋町橋辻」(図7参照)

今井川への回遊の連続性確保

- ・今井川プロムナードと東海道をつなぐ辻空間のデザイン検討

一里塚・見附等の復元

- ・拡幅に伴い撤去が必要となる一里塚・見附等の移設や再設置

宿内外の切り替わり部分のイメージ付与

- ・交差点の自然な風合いの舗装(茶系)

茶屋町橋の木橋デザインイメージの付与

- ・木橋であった茶屋町橋の雰囲気の創出検討

辻部デザインの住民参加による計画の検討

- ・市民との協働によるデザインの検討

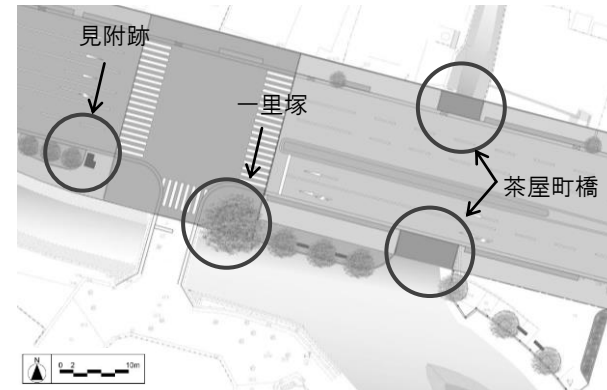


図7 茶屋町橋辻イメージ図

4) 新旧の東海道等とのつながりを生み出し駅伝の象徴となる「保土ヶ谷橋辻」(図8参照)

今井川や保土ヶ谷駅方面への回遊結節点としての滞留空間確保

- ・保土ヶ谷駅や旧東海道、今井川方面をつなぐ交差点滞留部整備

震災復興橋である保土ヶ谷橋の再利用

- ・桁の歩道下での再利用
- ・ストリートファニチュアに再利用(桁・束柱等によるベンチ・歴史解説板等)

橋詰広場・交番等の空間構成要素の導入

- ・震災復興橋を活用した滞留空間(橋詰広場)や辻内での交番の再設置検討

駅伝応援者や応援支援活動等の空間確保

- ・往路や復路からのアイストップとなる樹木の設置
- ・築山やベンチ型植栽樹等による応援空間確保

辻部デザインの住民参加による計画の検討

- ・市民との協働によるデザインの検討

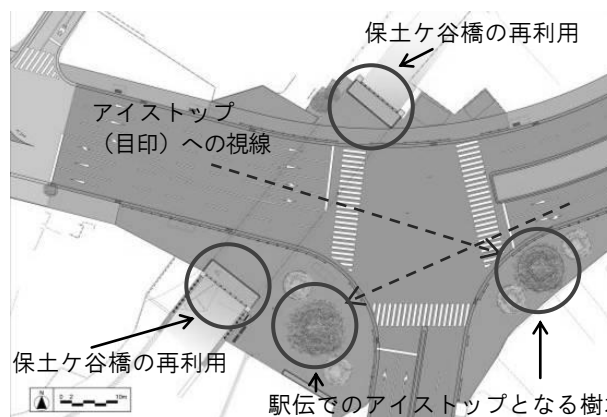


図8 保土ヶ谷橋辻イメージ図

5) 金沢鎌倉道への回遊を促す「金沢鎌倉道辻」(図9参照)

歴史の道を辿る場を認識できる空間の創出

- ・交差点部に案内サインや歴史解説板の設置

金沢鎌倉道につながるイメージを想起こす舗装等

- ・交差点の自然な風合いの舗装(茶系)
- ・旧東海道の道筋と異なる色彩の舗装

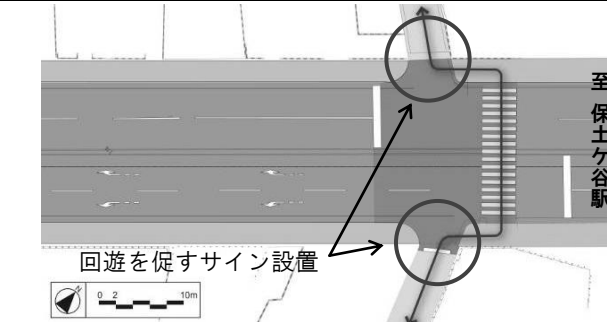


図9 金沢鎌倉道辻イメージ図

(2) 辻を結ぶ回遊ネットワークの形成(図10参照)

1) 辻等における滞留空間の確保

- ・各歴史的資源の道路に面する部分での滞留可能な広場的空間の整備

2) 今井川と東海道の回遊ネットワーク構築

- ・各歴史的資源や社寺と広場的空間のネットワーク化
- ・今井川と東海道を往来しやすい環境づくりの推進

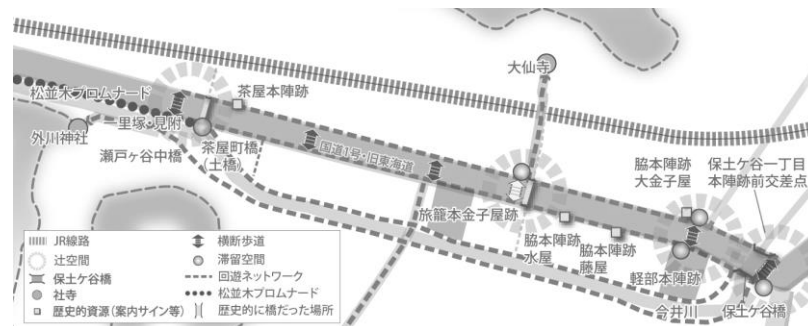


図10 回遊ネットワーク図

(3) 歩行者案内サインや歴史解説板等の整備

1) 対象とするサイン

- ・歴史解説サイン、施設表示サイン、案内地図サイン等

2) サインデザインの考え方

- ・「見やすい、読みやすい、見つけやすい」デザインを考慮
- ・耐久性を考慮した素材の活用
- ・歩行者動線上の配置や向き歴史資源との一体性等デザインの統一

3) サインデザイン(表1参照)

	歴史解説サイン	施設表示サイン	案内地図サイン
案1(格子型)			
案2(屋根・庇付型)			

表1 サインのイメージ

4) 新たに整備するサイン

- ・保土ヶ谷橋、大仙寺、外川神社等

5) サイン配置計画(図11参照)

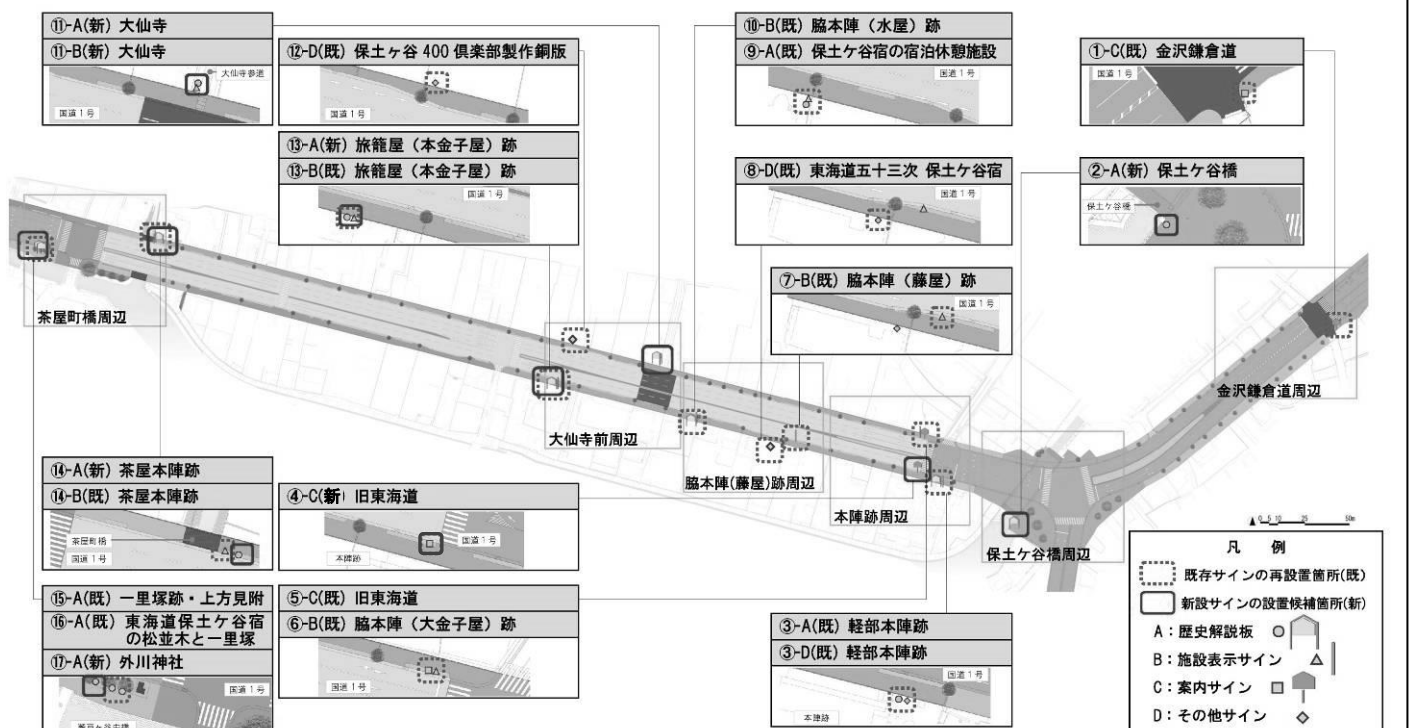


図11 サイン配置計画図

※図やパース及び写真はイメージで、確定したものではありません。

3. 魅力ある拠点形成や駅伝を舞台とした情報の発信と提供

(1) 歴史的資源の保全・活用

1) 軽部本陣跡の保全・活用 (写真3参照)

- ・震災前に建造された鉄筋コンクリート造の蔵と門の保全・活用



写真3 軽部本陣跡

2) 旅籠本金子屋跡の保全・活用 (写真4参照)

- ・旧東海道に面し、ほぼ当初の位置に現存する金子家住宅の保全・活用



写真4 旅籠本金子屋跡

(2) 広域的なにぎわいと交流の促進

歴史的資源を活用した市内外の交流や地域学習の活動連携拠点形成 (写真5参照)、(写真6参照)

- ・地域交流に活用しやすいサインや休憩空間の確保
- ・軽部本陣跡や旅籠本金子屋跡との連携や滞留空間の確保
- ・市民や地域活動団体との連携



写真5 地域交流イメージ



写真6 地域学習イメージ

(3) 駅伝の応援と沿道の一体感の創出

目印となる樹木等の設置 (図12参照)

- ・保土ヶ谷橋辻でのシンボルツリー等の設置

応援や支援スペース等の確保 (図12、写真7参照)

- ・保土ヶ谷橋辻や茶屋町橋辻等において広場的空間の確保
- ・沿道の応援に配慮した築山や植栽の設置検討

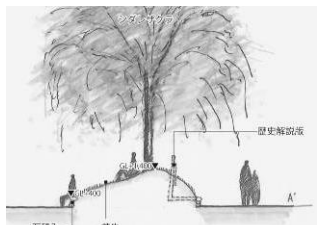


図12 保土ヶ谷橋辻での築山とシンボルツリーのイメージ



写真7 駅伝時の応援の様子

4. 市民参加によるみちづくりと維持管理

(1) 市民参加によるみちづくり

1) 辻の設計における市民参加 (写真8参照)

- ・保土ヶ谷橋辻や茶屋町橋辻におけるワークショップ等

2) みちづくりへの市民参加 (写真9参照)

- ・市民と協働したみちづくり
- ・市民が道路整備に携わる場の創出



写真8 ワークショップのイメージ



写真9 市民参加による道路整備イメージ

(2) 市民参加による維持管理

1) ハマロード・サポーター制度等の活用 (写真10参照)

- ・多様な主体と連携した維持管理

2) 取得済み用地等の暫定活用 (写真11参照)

- ・市民による植栽等の地域活動
- ・宿場の雰囲気を出す管理用フェンス等の設置検討



写真10 ハマロード・サポーター活動イメージ



写真11 取得済み用地暫定活用イメージ

(3) 市民参加によるみちを活用したイベント活動

- ・絵画コンクール等の実施 (写真12参照)
- ・維持管理等のイベント実施 (写真13参照)
- ・地域活動団体、学校、住民等の連携によるイベント実施



写真12 屋外展示のイメージ



写真13 市民参加による維持管理イベントイメージ

※図やパース及び写真はイメージで、確定したものではありません。

発行：横浜市道路局建設課

電話番号：045-671-3521

ホームページ：<http://www.city.yokohama.lg.jp/doro/kensetsu/r1/hodogayabashi/>

編集協力：横浜市都市整備局都市デザイン室、保土ヶ谷区区政推進課

<平成26年3月発行>